

令和4年度第3回^{もり}森林の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 日 時 令和5年3月23日（木）
- 2 場 所 杉妻会館 3階 百合
- 3 出席委員 5人
- 4 議 事

（1）議題

ア「令和4年度森林環境基金事業の実績見込について」について

【事務局】

資料5により説明。

【掃部委員】

（2月補正で減額した森林整備事業について）要望が減った理由について伺いたい。

【森林整備課長】

森林整備事業において、間伐の補助をしているが、ウッドショックにより材の値段が上がっており、間伐よりも皆伐をして材を搬出した方が収入になると考える所有者が多くなったことから、間伐の要望が減り、再造林の要望が増えた。

【掃部委員】

そもそもどういう仕組みなのか伺いたい。

【森林計画課長】

2月補正で減額した金額については、森林環境基金に戻る事となる。そして、次年度以降の森林環境基金事業に活用している。

【柴田委員】

コロナの影響で森林環境教育の予算が減ったとの事であるが、参考までに、もりの案内人による小中学校を対象とした今年度の活動は、昨年度より49件増加している。コロナで減らず、自然観察等増えている現状がある。

【沼田座長】

子ども里山教育支援事業によって、もりの案内人による実績が増加しているのはいか。

【森林計画課長】

子ども里山教育支援事業では、件数は増えてはいるが、委託の上限としていた件数には届かない状況であった。

ちなみに、未来へつなげよう豊かな森林づくり事業は2月補正で減となっているが、これは、もりの案内人養成講座の定員をコロナ対応として、空間をとって実施したことから、予定していた受講者数を減としたことからである。例えば植樹祭も椅子の間隔をあけて実施した。コロナの影響が予算に現れるところとそうでないところがある。

【鈴木委員】

①里山保全対策事業について、近年3種の外来種のカミキリムシの調査や取り組みは考えているか。

【森林保全課長】

県内ではツヤハダゴマダラカミキリ、サビイロクワカミキリの2種が増えていると認識している。森林被害は確認されていない状況であり、当該事業では実施していない。しかし、サビイロクワカミキリについては、林業研究センター主体で調査事業を実施している。令和5年度も実施予定である。

②県産材サプライチェーン構築支援事業について、大径木を利用するそもそもの目的を伺いたい。

【林業振興課長】

人工林スギの半分以上が50年生以上であり、建築用材の構造材として16cm以上30cm程度の材の需要がある。30cm以上であると合板としての利用となり、構造材と比較すると取引値が安価となる。

県内の大径木材に付加価値をつけていきたい。

③作成したパンフレットは、こういったときに配布しているのか。

【森林計画課長】

森林環境税 PR パンフレットについては、大人向けとして林業祭等のイベントで配布している。

森林環境学習下敷きについては、小学校の森林環境学習の実施の際に活用してもらっている。

コースター、鉛筆については林業祭等のスタンプラリー等の景品としている。

木の良さ PR パンフレットについては、いろんなイベントの際に同封したりしている。

【沼田座長】

森林環境交付金事業の地域提案重点枠について、昨年度実績は40件、今年度実績見込みは36件であり、件数に大きく違いはないが、今回大きな予算減となっている理由について伺いたい。

【森林計画課長】

少額の要望が多かった。

森林環境譲与税でも木材利用を推進し始めた頃とも重なり、使い分けで市町村が悩まれたと考えられる。

令和5年度については、予算額を超える要望があったので、継続して実施していく。

【沼田座長】

森林環境交付金事業の森林環境基本枠について、森林整備実績が昨年度は109ha、その前は128haであったが、今年度見込みは74haとなっているが何の影響によるものか。

【森林計画課長】

市町村の創意工夫によって自由に活用して良い交付金であるが、市町村で余った金額を集めると10,000千円程度となった。

森林環境基本枠では、森林環境学習を実施することを必須としており、そのほか森林整備にも活用している。

森林環境譲与税も活用の幅が広がっているので、森林整備に当該予算が充当された可能性がある。

森林環境教育を進めていきたいと思いががあるので、森林環境教育支援事業等も並行して進めていき、基本枠の活用を働きかけていきたい。

【沼田座長】

つまり森林整備が減った理由は森林環境譲与税が影響していると理解すればよいか。

【森林計画課長】

確定的なことは言えないが影響はあると思う。

(2) 議題イ「令和5年度森林環境基金事業の実施について」について

【事務局】

資料6により説明。

【丸委員】

植樹関連の事業はふくしま植樹祭記載事業のみか。

太陽光発電の設置によって森林が無くなってきているが、それを補うような事業は実施可能か。

【森林計画課長】

未来へつなげよう豊かな森づくり事業の中で、地方植樹祭の支援として地方の緑化推進委員会への補助を実施している。

森林整備事業の森林機能向上事業において、再造林を補助し、伐採した場所には植栽

している。

太陽光発電の設置により、林地外となってしまった分を増やすことは難しい。

【沼田座長】

大規模太陽光発電について、ガイドラインが作成されているところであり、造成できる場所とそうでない場所の区域分けがなされる見込み。

【鈴木委員】

- ① 全国植樹祭記念の森整備事業の活動計画について伺いたい

なお、昭和の森のようにはしていかないのか。

【森林計画課長】

整備が終わり、保育を行っていく。南相馬市において広場を造成する予定であり、市民の目に触れる場所となっていく。

海岸防災林の一部であるが、市によって造成される公園に近い位置に植えてある。公園と一緒に見てもらえるような場所として管理していきたい。

- ② 花粉の少ない森林づくり事業について、展示林を新地町に作るとあるが、一般の人が行きやすい場所にしてはどうか。

【森林整備課】

震災前の浜通りは土地柄苗木の生産が盛んな地域であった。また、震災後も海岸防災林造成用の苗木の生産を担っていた経過がある。

なお、特定母樹の苗木は初期成長が早い特徴がある。従来品種のもゆくゆくは成長し、明確に差が分かる期間はある程度限られる。

今後、場所の確保ができれば、中通り等の交通の便が良い場所についても検討していく。

- ③ 生物多様性調査について、ぜひやっていただきたいと思うが、内容をどのように公表するのか伺いたい。希少生物の生息地を特定されると盗掘の恐れもある。

【森林計画課長】

(自然保護課長欠席のため森林計画課が回答) 場所特定して発信すると盗掘の恐れがあるので、自然保護課も十分に認識しているとは思いますが、なお、当該意見は申し伝えたい。

【沼田座長】

ふくしまの生物多様性保全支援事業で 40,00 千円ほどの予算を付けている理由。

【森林計画課長】

福島大学への調査に係る委託料で 400 万円積んでおり、その他情報発信にかかる金額を予算化している。

【沼田座長】

林業普及推進事業のアウトソーシングによる予算の 5 倍増について伺いたい。

【森林計画課長】

森林計画課内においた実行委員会による業務が、コロナ禍等に対応した林業祭を開催するに当たり、職員の負担が増大していることに加え、他事業との調整により、アウトソーシングを図ることとした。

【沼田座長】

その説明について、何らかの形で記載する必要があると感じる。

【沼田座長】

ふくしま木造化・木質化事業において、ガイドライン作成に 20,000 千円もかかる理由について伺いたい。

【営繕課】

中大規模の建築物の木造化を進める主旨で、全国の先進的な事例を集めて分析していくため、外部委託する予算を取っている。

【沼田座長】

昨年度に引き続き、なぜその外部委託に 20,000 千円もかかるのかというところをご説明いただきたい。

【営繕課】

参考見積を積み上げて、この委託費となっている。

【沼田座長】

今でなくてもよいので、もう少し県民に分かりやすい説明をお願いしたい。

【沼田座長】

木造建築物等整備促進事業で事例集を作るに当たっての予算規模について伺いたい。

【林業振興課長】

県では公共施設の木造化を推進しているところで、県内で実績のある木造の公共施設の事例を集めたい。県内もここ約 3 年間で 30 事例程度あり、市町村の分も事例や写真も集めることで、工法によっては大きい施設でも木造の施設ができることについて分かるような事例集を作成する。また、コストや工夫点等もまとめて、紙ベース及びデータで掲載していきたい。

【鈴木委員】

ふくしま木造化・木質化事業ガイドラインの成果はあるのか。

【営繕課】

成果物はできている。外部有識者を交えた検討委員会で作成している。令和4年度の検討委員会の中でさらに追加で検討すべき点があったため、令和5年度に改めて検討していく。

【沼田座長】

つまりどういう成果が出たのかどうかを伺いたい。

【営繕課】

中大規模の県有建築物について、鉄筋コンクリートの場合と木造の場合のコスト比較をしている。木造の新たな技術や施工性が高い性質も加味したコスト比較をしていく。

次年度は、木材の性能面の良さについても加味したものを作るために引き続き検討していく。

情報発信については、県だけではなく市町村、民間に発信していく。

【丸委員】

森林の保護のため、太陽光発電の設置が屋根の上で普及するように補助金を出せないか。

福島県のゴミ量がワースト2位であるので、枝葉をゴミとして出すのではないリサイクルの方法はないか。

【森林計画課長】

再生可能エネルギーの促進区域の設定に当たり、特に太陽光発電は、森林区域を除外するよう、意見を出しているところ。

ゴミのリサイクルに関しては、農業分野や環境分野の部局へも当該意見があったことを申し伝えたい。

